

山内 悠（やまうち・ゆう）

1、プロフィール

師範学校在学中から詩誌に作品を発表し、教職に就いて児童らと始めた回覧雑誌「泉」は 27 号まで続いた。

<生没>

1912(明治 45)年7月 27 日 ~ 1943(昭和 18)年2月 13 日

<代表作>

『山内悠遺稿集 無窮動』

<青森との関わり>

下北郡大畑町に生まれ、青森師範学校を卒業後、三戸郡下の小学校に勤務、後に西浜地方で教鞭をとった。

2、作家解説

本名は庸行(つねゆき)で、明治 45 年に大畑町で生まれる。昭和8年3月に青森師範学校を卒業する。その間、師範学校校友会誌・詩誌「北」に作品を発表している。

三戸郡下の階上村、上郷村の各小学校に勤務するが、階上村在勤中の受持ち児童らと回覧雑誌「泉」をはじめ。「泉」は 27 号をかぞえた。

上京の願いや文学者たる望みを抱いていたが、肺結核が高じ、昭和 17 年秋、教職を辞し、翌年2月死去する。享年 32 歳。

昭和 48 年 12 月に発刊された『山内悠遺稿集 無窮動』には、詩が長短 16 編、感想 2 編、小館衷三宛書簡(昭和 15 年9月7日付~18 年1月9日付)90 通が収められている。

遺稿集を贈られた川端康成、外村繁らからは、悠の才能を惜しむ手紙が送られてきたが、生前の交友の広さが偲ばれる。

3、資料紹介

○『山内悠遺稿集 無窮動』

図書

1968(昭和 43)年 12 月 10 日

180mm×130mm

詩が 16 編、感想 2 編、小館衷三宛書簡 90 通が収められている。特に書簡には、多くの書名、作家名の記載があり、悠の知識欲が伝わってくる。